

議事 1 安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討に向けた基本的な考え方

安来市公立幼児教育・保育施設の課題

(1) 保育人口減少の対応

出生数は R7 年度に 138 人となり、H27 年度（273 人）に比べ大幅に減っている。園児減少により、私立保育施設では経営悪化の影響が出ている。公立保育施設では、小規模化・中規模化が進行しており、園行事や集団活動が困難な状況が散見されている。子どもの育ちに最適な環境と適正な施設規模を検討するとともに、市南部における保育体制を検討する必要がある。

(2) 幼児教育・保育施設の設置状況

市の公立施設は、建築から 40 年以上が経過している施設が多く、施設の老朽化が進んでいる。また、子どもの減少により、私立保育施設と競合も生じており、今後の公立施設配置や施設状況について検討する必要がある。

(3) 保育ニーズの多様化

障がい児保育や病児・病後児保育、一時預かり保育など保育ニーズの高まりや多様化に対応するため、保護者のさまざまな就労形態や家庭状況に応じた保育サービスの充実を図る必要がある。

(4) 保育所運営費等の効率化

多様化する保育ニーズに対応するため、限られた財源・人材を有効に活用し、将来にわたって安定した保育サービスを提供できる、持続可能で効率的な保育体制を構築する必要がある。

(5) 保育の質の向上に向けた取組

子どもにとって最適な環境を提供し、保育の質を維持・向上させるため、市内の保育施設全体における保育士の確保を図るとともに、子どもの健やかな成長に必要な集活動の環境を確保する必要がある。

これらの課題を踏まえ、本委員会において、今後の方向性を検討するにあたり「基本的な考え方」を整理する。これは、委員の共通『指針』および『客観的な判断基準』を確立することを目的とする。

提案事項

安来市公立幼児教育・保育施設のあり方検討に向けた基本的な考え方

公立幼児教育・保育施設の再編を含めた今後のあり方を検討するにあたり、以下の 5 つの基本的な考え方を掲げます。これらは少子化時代に即した持続可能な保育環境を構築し、子どもの健全な成長を支えるための指針です。

1. 子どもの成長を最優先とした安心安全な環境の確保

再編にあたり、子どもの学びと成長を最優先とし、将来にわたり集団規模を確保した上で、質の高い教育・保育環境を提供します。また、施設の安全性・老朽化の状況を踏まえ、子どもたちが安心安全に日常生活を送ることができる施設を目指します。

2. 公私連携による持続可能な幼児教育・保育体制の構築

公立・私立で連携し、市全体で安定的に持続可能な幼児教育・保育の提供体制を構築します。急速な少子化に伴う利用者減少に柔軟に対応し、地域内の保育ニーズへ~~は~~十分な~~な~~対応と~~を~~き、効率的な運営が可能な体制を迅速に整えます。

3. 保護者ニーズと地域住民への配慮

再編による保護者への生活環境への影響を最小限に抑えるため、保護者の利便性等を配慮します。また、関係者や地域住民への丁寧な説明と意見聴取によって透明性のあるプロセスで再編を進めます。

4. 人材確保と職場環境の整備による保育の質の維持・向上

再編後において適正な人員の確保を行い、職員が働きやすい職場環境の整備を目指します。あわせて、職員の負担軽減とモチベーション向上を図り、質の高い保育の維持・向上に努めます。

5. 公立の子育て支援機能の充実

公立の役割の一つとして、一人ひとりの子どもの発達や個性に寄り添った保育を実践するとともに、地域と連携した子育て支援機能を適切に維持します。行政・家庭・地域が一体となって子どもの育ちを支える環境の向上を目指します。